



タンチョウの数かぞえ調査では村内で280羽を確認

毎年恒例のタンチョウの数かぞえ調査（正式名はタンチョウ越冬分布調査／北海道主催）の第1回目が、12月2日に実施されました。この調査は同じ日の同じ時間帯に全道各地でタンチョウを確認・記録するもので、昭和27年（1952年）から続けられています。

この調査は、かつては「タンチョウ生息状況一斉調査」という名称で、生息個体数の把握が主目的だったため、今なお確認羽数の結果に目が行きがちです。しかし、個体数の増加に伴い、正確な羽数を把握することが難しくなりました。そのため、平成24年度から「タンチョウ越冬分布調査」と名称を変更し、大まかな越冬分布や規模の把握に主眼を置くことになりました。

村内では、小中学生や村民のみなさん総勢151名にご参加いただき、64ヶ所で調査を実施しました。全道では406名が参加し、計419ヶ所で調査が実施されました。鶴居村では、全校の児童生徒、地域住民が多数参加し、全域にわたり調査を実施しているため、他市町村と比較して参加人数、調査箇所数ともずば抜けています。地域のみなさんの協力のおかげで、「鶴の居る村」の名に恥じない誇るべき結果になったと思います。

さて、調査の結果は、茂幌呂地区を除く各地区で計280羽が確認されました。昨年度を40羽下回る結果となりましたが、この時期はまだ本格的な越冬地への移動が進んでおらず、村内の越冬個体数が減ったと考えるのは早計です。中雪裡地区と下雪裡地区では、前年比に大幅な増減がありましたが、両地区はひとつのエリアと考えてよいでしょう。全道では野生個体が933羽確認され、昨年度を32羽上回りました。7、8年前から道東地方以外でも少数ながら確認されるようになり、今回も日高、胆振、空知、宗谷地方で確認されています。

多くの村民にかかわっていただくことで、正確なデータを得られやすくなるのはもちろん、関心を持って参加してくださる村民が増えることは、タンチョウとの共生に向けた取組の充実にもつながります。今後も多くの村民にご参加いただけたらうれしいです。1月24日に第2回目の調査が予定されています。

令和4年度タンチョウ越冬分布調査集計表(第1回／村内)

〔地区別〕

調査地区	調査場所数		調査人数		確認数				
	R4	前年比	R4	前年比	成鳥	幼鳥	不明	計	前年比
1 中久著呂	2	±0	2	±0	4	0	0	4	-2
2 下久著呂	7	±0	11	±0	45	5	0	50	-6
3 茂雪裡	2	±0	2	±0	3	1	0	4	-3
4 支雪裡	1	-1	1	-1	4	1	0	5	-3
5 中雪裡	11	-1	31	+5	2	1	0	3	-100
6 下雪裡	18	-2	57	-9	147	14	11	172	+119
7 新幌呂・上幌呂	3	-1	3	+1	2	0	0	2	-3
8 支幌呂	2	+1	2	-1	8	2	0	10	-12
9 茂幌呂	2	±0	3	+1	0	0	0	0	-6
10 中幌呂・中幌呂下	7	-1	21	-1	11	1	0	12	-28
11 下幌呂・温根内	9	±0	18	-1	16	2	0	18	+4
合計	64	-5	151	-6	242	27	11	280	-40